

者ニテゾ有ケル、年七十ニ餘テ、世ノ中ニ被用デナム有ケル、家極ク貧カリケレバ、万ヅ不叶デゾ過ケル、而ル間居タル家ニ強盜入ケリ、賢ク構テ善澄逃テ、板敷ノ下ニ這入ニケレバ、盜人モ否不見付、ズ成ヌ、盜人入り立テ心ニ任セテ物ヲ取リテ、物ヲ破リ打カハメカシテ、踏ミ壞テ嗶リテ出ニケリ、其ノ時ニ善澄板敷ノ下ヨリ忿ギ出デ、盜人ノ出ヌル後ニ門ニ走リ出デ、音ヲ舉テ耶己等シヤ顔共皆見ツ、夜明ケムマ、ニ檢非違使別當ニ申シテ、片端ヨリ捕ヘサセテムトスト、極ク妬ク思エケルマ、ニ叫テ門ヲ叩テ云懸ケレバ、盜人此ヲ聞テ、此レ聞ケ己等去來返テ此レ打殺シテムト云テ、ハラ／＼ト走リ返ケレバ、善澄手ヲ迷シテ家ニ逃テ、板敷ノ下ニ忿ギ入ラムトスルニ、迷テ入ル程ニ額ヲ延ニ突テ、急トモ否入り不敢ザリケレバ、盜人走リ來テ取テ引出デ、太刀ヲ以テ頭ヲ散々ニ打破テ殺シテケリ、然テ盜人ハ逃ニケレバ、云フ甲斐无クテ止ニケリ、善澄才ハ微妙カリケレドモ、露和魂无カリケル者ニテ、此ル心幼キ事ヲ云テ死ヌル也トゾ、聞キト聞ク人々ニ云被謗ケルトナム、語リ傳ヘタルトヤ、

〔宇治拾遺物語〕<sup>三</sup>むかし、大太部とて、いみじきぬす人の大將軍ありけり、それが京へのほりて、物とりぬべき所あらば、入てもものたらんと思て、うか／＼ひありきけるほどにめぐりもあばれ、門などもかた／＼はたうれたるを、よこ様によせかけたる所のあだけなるに、おとこといふものは一人もみえずして、女のかぎりにて、はり物おほくとりちらしてあるにあはせて、八丈うる物などあまたよび入て、きぬおほくとり出て、えりかへさせつ、物どもをかへば、ものおほかりける所かなと思て、たちとまりてみいるれば、おりしも風の南のすだれをふきあげたるに、すだれのうちになにの入たりとはみえねども、皮子のいとたかくうちつまれたるまへにふたあきて、きぬなめりとみゆる物とりちらしてあり、これのみてうれしきわざかな、天たうの我に物をたぶなりけりと思て、走かへりて、八丈一疋人にかりてはきてうるとて、ちかくよりてみれば、内にも